

觀世流改訂儒本

內六

竹生鳴
朝長
姨捨
柏崎
阿漕

明治四十三年四月三十日印刷
明治四十三年五月五日發行

訂正者、檢印
ナキモ、ハ偽版也

東京市麴町區中六番町二十九番地

訂正兼
發行者

丸

岡

桂

東京市下谷區二長町壹番地

印刷者

塚原錦三郎

東京市下谷區二長町壹番地

印刷所

凸版印刷株式會社

東京市麴町區中六番町廿九番地

發行所

觀世流改訂本刊行會

電話番町二五四番

文學博士

井上秋國

本文監修

丸岡 柱

本文訂正

親世清之

節附訂正

協能

竹生嶋

三月

前ツ
後ツ
ワツ
ヤキ
臣天龍女
下女神 翁

三ノ
ツヨク

竹生嶋の
竹生嶋の

急ち
そもく
延喜の

代は
奉る
なり
さても
江州

竹生嶋の
羽神
霊神
そと
江の

向
江度
君よ
暇を
申し
作
今
竹

生嶋
よ
来
信
仕
り
の
田
の
宮
や
河

原の宮居まはまきく。名も走井
の水月。曇らぬ所代は。逢坂の開
け宮居を休ねえ。山越え近き志願
の里。鳩の浦ももゑきはけりく
急ぎの程。鳩の浦は着きてゐる。あれ

と見れど釣竿のまゝの程く相待ち。

便所を乞つてとなふの
あも

真声
コイ合

るや須^ヤふ生^{ヨイ}け半^{ナカバ}なれどもほもろ
は海^{オモ}の面^{ツレ}霞^{ツレ}又^{ツレ}後^{ツレ}れろ新^{フタ}ぼけ
長^{シテ}閑^{シテ}は通^{シテ}は海^{シテ}の道^{シテ}。うきわざとな
き心^{シテ}ろな。これ江^{シテ}浦^{シテ}里^{シテ}は位^{シテ}又^{シテ}別^{シテ}れ
て。何^{シテ}者^{シテ}運^{シテ}ぶうろろづれ。数^{シテ}をつく
て身^{シテ}いそつを助^{シテ}けやせこと他^{シテ}び人の。
ひまも長^{シテ}閑^{シテ}は羽^{シテ}け暮^{シテ}れて去^{シテ}を後^{シテ}ろ

そと。も。憂。け。れ。う。す。く。同。じ。な。

から。せ。る。こ。え。た。な。海。の。名。可。多。

き。数。も。く。浦。山。あ。け。て。眠。む。も。志。

賀。の。都。花。園。昔。な。ぐ。れ。山。樞。真。野。

の。み。に。あ。り。船。作。が。い。さ。さ。さ。と。な。て。と。

と。ま。さ。し。く。し。あ。は。れ。な。る。

毎。日。便。船。申。さ。る。の。う。ち。に。あ。ら。は。れ。な。る。

77

一母もあはれはたしめしめしめ

こゝろもあはれと見てしめしめしめ

とらせしめしめしめしめしめしめ

け者ありしめしめしめしめしめしめ

げはたしめしめしめしめしめしめ

人ともあはれしめしめしめしめしめ

神慮も計りしめしめしめしめしめ

まさき 嬌やまての迎へけ海流
 の力と覚えたり けよの狭更長閑
 まて心はゆるいもあ 名こそき
 あふや志賀の浦はた立ちあるの都
 人々痛むもあまは居られて浦とを
 眺めゆるや野の海の上 国は
 江のほろもきよは春あれや花は

かなから白雪の降るう残るう時知
らぬふい都れ富士あるや。程さえ
うさまの日は比良のねもう
そても沖漕ぐ舟よも盡き旅の
あゝひの思をずも雪舟のよそは見
人もあゝ舟よあれ衣浦と隔て行
く程は竹の島も見えたりや。緑樹

歌^カ決^{ケツ}んで^ニ魚^{イサ}は^ニ登^{ノボ}る^ニ氣^キ色^シあり^ニ月^{ツキ}
海^{ウミ}は^ニ深^{フカ}んで^ニ免^メも^ニ浪^{ナミ}を^ハ走^{ハシ}る^ニあ^ニも
し^ニら^ニれ^ニ島^{シマ}の^ニけ^ニさ^ニや^ニ船^{フネ}着^{ツク}て^ニ
の^ニは^ニあ^ニぢ^ニり^ニん^ニあ^ニま^ニ娘^{ムスメ}や^ニ姫^{ヒメ}て^ニ神^{カミ}
前^{マエ}へ^ニま^ニり^ニい^ニづ^ニけ^ニ射^シる^ニ道^{ミチ}へ^ニる^ニ中^{ナカ}
さ^ニも^ニあ^ニら^ニし^ニて^ニい^ニふ^ニこ^ニそ^ニ辨^{ベン}才^{サイ}天^{テン}は^ニ
て^ニる^ニい^ニふ^ニこ^ニそ^ニ新^{シン}念^{ニン}い^ニづ^ニ承^{ウケ}り^ニ及^{ツク}

なによりもいふ優^{マサ}りてありかなりい。

あきやあし島^{ニニ}の女^ニ人^ニ杜^ニ制^ニとて承

りそい^ニあれあ^ニる女^ニ人^ニの^ニ中^ニに^ニあ^ニる^ニて

いそ^ニそれ^ニ知^ニぬ^ニ人^ニの^ニ中^ニに^ニあ^ニる^ニて

いそ^{○カダシテナ}くも^{○キウシヨオニヨライ}い[○]島[○]元[○]生[○]あ[○]ま[○]の[○]中[○]に[○]再[○]誕[○]あ[○]れ[○]。

殊[○]な[○]女[○]人[○]の[○]中[○]に[○]あ[○]る[○]べ[○]い[○]れ[○]の[○]中[○]に[○]あ[○]る[○]。

ま[○]で[○]も[○]あ[○]る[○]べ[○]い[○]れ[○]の[○]中[○]に[○]あ[○]る[○]。

上シテ
 其神徳もあつたあるま女
 と見ももあせ安人をも陽てな
 一昨知らぬ人の言葉ありウ
 悲れを起ていん完平ひさ
 通されまへより利生更は急ぎ
 げよくおほど難ひも荒磯の松
 蔭を便のよまらあまおみ
 幸

人向はあらむとて。社壇の扉を押
し開き。序殿へらせひけれ。おも
水中へ入る。おもえ。白波けきち。ゆ
り。われ。沢湖の。おも。ぞと。きひ。け。て
また。浪。え。らせ。ひ。け。り。上地。中。序。放。ち。
鳴。動。して。日月。光。り。輝。ま。て。山。端。
むづ。ご。と。て。現。を。ひ。ら。き。ぞ。か。た

けなき 折れぬ 世島よきんで神を

敬ひ國を守る。辨戈天と我よりあり

上向 其時虞寧は音楽をえく。花より

なるまけ夜の月。輝く少女に被り

もぐも。あしるる。夜おのゝ音楽

も時返きてく。けきえ流る。湖づゝ

進ム 浪はちよ鳴動して下界に龍神現る

